



巻頭言

脳血管センター長

いけだ ひさと
池田 尚人

脳血管センターの外科部門である脳神経外科は、開院当初より脳卒中急性期の患者さんに対し24時間・365日の診療体制を積極的に行い、スタッフが若干増えた2022年より、脳卒中に対する超急性期に対応する診療体制は維持しつつ脳腫瘍、顔面けいれん・三叉神経痛等の機能外科などの症候性の病態（症状のある病気）に対し、診療を開始しておりました。2025年1月より新しく経験豊富なメンバーが加わり、開頭術と血管内手術の両方の治療が、24時間365日、しかも高いレベルで可能となりました。この新しい体制の下、予防手術の領域に対しても積極的に外科的診療を行っております。今回の病院だよりでは、「急性疾患」、「症候性病変」などの「疾病フェーズ」について、お話をしながら脳神経外科の新しい体制をご紹介します。



時間的経過、特に進行の速さに視点を置くと急速に進行する疾患を急性疾患と表現されます。また症状の有無により、症候性あるいは無症候性疾患と分けることもあります。医療スタッフは、このような点を考慮し疾患がどのような局面（フェーズ）に当たるかを考え行動しています。脳卒中などの急性疾患は、突然発症し短時間で症状が進み、重症となることも珍しくありません。ほとんどの場合は、病院に救急車で搬送されます。脳梗塞超急性期では禁忌事項*1がなければtPAという特効薬、また血栓回収術という方法があり当センターの得意な領域です。これらの治療法は、功を奏せば無症状まで回復できる可能性があります。この場合、治療のタイミングは早ければ早いほど良く、このような急性期の更に早い時期を超急性期と呼びます。一方、疾患の存在が確定している場合、症状が出ているものを症候性病変、症状が出ていないものを無症候性病変といいます。症候性の場合、軽い症状から始まり急にあるいは徐々に進行します。悪性腫瘍のように発症してから急速に進行する疾患、徐々に進行する顔面けいれん、正常水頭症のような疾患もあります。一般に無症候性病変の場合は、ドックや他の目的で検査した時に偶然見つかることが多く、悪性疾患が疑われなければ比較的時間があるので、準備して治療計画を考えます。

このような予防手術のうち当科では、特に破裂するとくも膜下出血となる未破裂動脈瘤、脳動脈の閉塞・狭窄またモヤモヤ病等に対し、脳梗塞のリスクを下げるためのバイパス手術、血栓内膜剥離術、ステント留置術等が当科の得意分野であります。また今まで通り手術中のトラブルがないよう手術支援機器（手術ナビゲーションシステムなど）や神経モニター（各種誘発電位など）を利用し安全な手術を計画しております。

*1：薬や治療が行えない条件・基礎疾患が存在すること



第135号のトピックス

- ・巻頭言（脳神経外科）
- ・第20回公開講座開催報告・動画配信のお知らせ
- ・セタイイベント開催のお知らせ
- ・フォーミュラE世界選手権 医療活動報告
- ・当院の産後祝い膳のご紹介
- ・江東区救急業務連絡協議会より表彰状をいただきました
- ・ご意見・ご要望
- ・編集後記

第20回公開講座開催報告・動画配信のお知らせ

6月7日（土）、第20回公開講座を開催しました。「暮らしと健康 おしりと骨盤の異変に気付く！正しい知識と最新治療—骨盤臓器脱（子宮脱）と脱肛（内痔核）を中心に—」というテーマで、第1部では、「骨盤臓器脱の最新治療—身体に優しい低侵襲手術を目指して—」の演題で産婦人科・石川哲也准教授が骨盤臓器脱と治療法について体操を交えながら講演しました。第2部では、「お尻から何か出る！？—脱肛・直腸脱の正体と対策—」の演題で消化器外科・田邊太郎助教が脱肛と直腸脱の違いや対処法について講演しました。

受講された方からは、「とてもありがたい機会なので、今後も続けてほしい」、「普段聞きづらい疾病について、わかりやすくユーモアを交えてお話しをきくことができた」などといったお声をいただきました。一方で、今回も早い段階で申込数が定員に達したため、参加できなかった方も多くいらっしゃいました。

当日の講演内容は後日ホームページで公開する予定ですので来場できなかった方はもちろん、すでに受講済みの方もぜひご覧ください。

次の開催は今年の秋頃を予定しております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



（左から）消化器外科 田邊助教、
大槻公開講座委員長、産婦人科 石川准教授

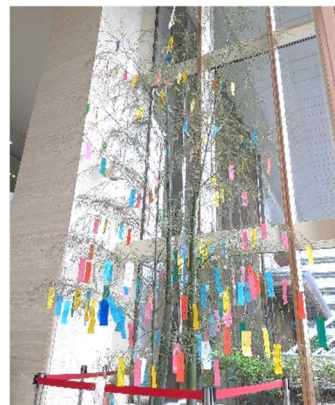


講演中の会場の様子

七夕イベント開催のお知らせ

七夕という行事を通じて、院内生活を送られている方をはじめ、当院を利用される方に季節感を感じていただきたく、6月27日（金）から7月7日（月）まで今年も1階ロビーに笹飾りを設置します。

ご来院の際は、ぜひ願い事をお寄せいただき、たくさんの短冊で笹を飾ってください。



昨年の笹飾りの様子

フォーミュラE 世界選手権 医療活動報告

5月17日（土）、5月18日（日）にフォーミュラE 世界選手権が東京で開催されました。フォーミュラEとは、バッテリー式電気自動車によるレースで、排気ガスや爆音もでないことから「電気自動車のF1」と呼ばれています。

東京ビッグサイト周辺の公道がコースとなっていた本大会では、緊急時の医療協力のために当院から、泌尿器科 森田教授、脳神経外科 池田教授、小児外科 川野准教授が派遣され、医療活動を行いました。

今年もFIA フォーミュラE 東京 e-prix の医療活動に当院から3名の医師が交代で出向しました。今シーズンの東京大会は2レースのフォーマットとなりました。あいにく土曜日は荒天でウェットレースとなりましたが、期間を通して約2万人の観客が来場しました。医療活動に関しては、2年目となりましたが、国際大会の大きなマスイベントであり、まだまだ解決すべき課題もあるようです。私たちはレース関係者側の医療を行いました、ドライバーの搬送事例もなく、軽症のスタッフ2名の受診があったのみでした。来年はナイトレースとして開催予定とのことです。



泌尿器科 森田教授

Pick up

当院の産後祝い膳のご紹介



牛肉の赤ワイン煮込み選択時の一例



赤魚とムール貝のアクアパッツァ
選択時の一例

栄養科 / みやなが なおき
宮 永 直樹

当院では、出産した患者さんに対してお祝いと記念の気持ちを込めて祝い膳を提供しています。祝い膳はオードブル、サラダ、主食、メイン料理、フルーツの盛り合わせ、ドリンクをご用意しています。

主食は「ライス」、「パン」、メイン料理は「牛肉の赤ワイン煮込み」、「赤魚とムール貝のアクアパッツァ」、ドリンクは「コーヒ」、「紅茶」、「ローズヒップティー」からお選びいただけます。2025年2月のアンケート調査では多くの患者さんから大変ご好評いただきました。これに満足することなく、よりよい祝い膳となるよう献立や味付けの見直しを行っていきます。

引き続き、産後の疲れを癒し、心を明るくする祝い膳として提供できるよう真心こめてご用意させていただきます。

ぜひ、お楽しみいただけたら幸いです。

江東区救急業務連絡協議会より表彰状をいただきました

救急センター病棟 栗原看護師が長年にわたり救急医療に従事し地域住民の安全・安心に寄与したとして、その功労を称えられ、江東区救急業務連絡協議会より表彰されました。

引き続き、救急患者さんの受け入れに尽力するとともに安全・安心な医療の提供に努めてまいります。



左から佐々木救急センター長、栗原看護師、横山病院長、嵯峨野救急センター看護師長

ご意見・ご要望

感謝	回答
ぜんそくで7日間入院しました。 スタッフの方はドクター、ナース、薬剤師、清掃スタッフ、食事のスタッフの方など、とにかく関わってくださった方が親切な方ばかりで、安心して過ごせました。 ご飯がおいしいのが一番良かったです。 居心地が良くて、体調が悪くなるのも悪くないと思ってしまうほどでした。(笑) 本当にありがとうございます。逆に辛いですが、戻ってこなくていいよう体調管理を頑張ります。	この度はとても嬉しいお言葉をいただきありがとうございます。 患者さんやご家族に安心して入院生活を送っていただけるように今後も努力いたします。 お言葉を励みにこれからも頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。 回答部署：8B病棟



編

集

後

記

梅雨が明け、いよいよ夏本番。セミの声が聞こえはじめると、夏が来たなぁと実感しますね。気温も湿度も高くなり、体調を崩しやすい季節ですので、こまめな水分補給と休息に注意が必要です。
夏といえば「水分補給」がとても大切です。喉が渴いたと感じたときには、すでに軽い脱水が始まっていることも。お水やお茶をこまめにとることを習慣にしておきたいですね。また、夏は体調を崩しやすい季節でもあるので、処方薬や市販薬の保管場所にもご注意ください。特に高温になる車内などに置っぱなしはNGです。
また、涼しい部屋に長時間いると体が冷えて、意外にもおなかの不調や食欲不振につながることもあります。まずは、冷たいものの摂りすぎに気をつけるなど、生活習慣の見直しが必要です。
この夏が、皆さまにとって少しでも快適で健やかな季節になりますように、病院スタッフ一同、皆さまの健康を支えるお手伝いができれば嬉しく思います。

薬剤部 / こしづか ひろみ
越 塚 宏美



昭和医科大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>
〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38
TEL03-6204-6000(代表)
発行責任者：横山 登 編集責任者：大槻 克文



昭和医科大学江東豊洲病院
ホームページ